

ダンスにおける身体への意識と理解、空間意識

名前：深澤 南土実

所属：東京藝術大学

専門分野・キーワード：身体表現、舞踊（コンテンポラリーダンス）、舞踊史（バレエ・デ・シャンゼリゼ）

自己紹介：ダンスにおける理論と実践研究を行う。芸術史における身体表現、舞踊についても研究を行う。



時間・空間芸術であるダンスは、表現の媒体が身体であることが特徴である。哲学者たちは、ダンスを「虚の實在」「ダイナミックなイメージ」(S.K. ランガー)、「イリュージョン」(M・フォーコー)と捉えた。

ダンスの現場では、ダンサーは表現者としての感性や感覚、個性を含んだ表現力だけでなく、目指す（または振付家の求める）表現を実現することのできるテクニック、特に、身体・空間に対する意識を養うことが重要となる。

ダンスの中でもコンテンポラリーダンスの場合、身体への意識と理解とは、具体的には、身体の構造やアライメント、呼吸の意識、ダイナミクスや皮膚感覚を理解し、様々な動きに対応できる力みのないニュートラルな身体を目指すことである。空間意識とは、空間の中での身体と地面との関わりあい、重力等を意識、利用することである。それらのテクニックとともに、身体の可能性や面白さを追求し、他者とのコミュニケーションを楽しんでいる。さらには、「身体で歌う」「身体で思考する」鍛錬をし、見る者にとって「説得力のある身体」を目指す。「身体で思考する」とは、振付を頭の中だけでイメージして踊っていることとは正反対のことであり、身体の声なきように、そして自身の身体で歌うように指導される場合に使用される用語である。

また、ダンスは作品を創作し舞台公演を行う際には、身体と振付のみではなく、音楽、美術や照明、衣裳とともに作品を成立させる。近年目覚ましい映像表現とダンスとの関係性、映像と身体の交錯についても紹介する。

